

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104034		
法人名	(株)セービング		
事業所名	グループホーム小月		
所在地	山口県下関市小月宮の町7-3		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町受理日	平成27年2月4日

※事業所の基本

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎食入居者の方と食事を作り3食完全手作り料理 ・毎日数名の入居者の方と買い物に出かけます ・掃除、洗濯も全員の方に参加していただいています ・天気の良い日は、外に散歩にでかけています ・毎日、レクリエーション、体操、足浴を取り入れ笑顔ですごしていただいています ・地域施設交流として近隣の特別養護老人ホームの行事への参加をしています ・自治会の清掃活動や祭事などや公民館などで催される地域の行事にも参加し地域との交流を図っています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や施設長、管理者は、月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けておられる他、日常の業務の中でも意見を言いやすい雰囲気づくりに努めておられ、職員の意見や提案を運営に反映しておられます。年6回の行事を兼ねた家族会の開催やケアプラン作成時の家族との情報の共有、連絡帳や電話などで家族の意見や要望を聞く機会を設けておられ、家族の安心と信頼に向けた関係づくりを大切にしておられます。センター方式のシートを独自に改良された「24時間生活変化シート」を活用され、利用者の身体状況、意向や思いの把握に努めておられ、その人らしい暮らしの支援に努めておられます。三食とも事業所で調理をされ、利用者の好みを聞いて献立を立てられ、食材の買い物から準備、調理、盛り付け、配膳、後片付けを利用者と職員が一緒に行っておられます。弁当を作ってお花見に行ったり、季節の行事食やおやつづくりなど工夫され、楽しい食事となるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作った理念及び企業理念を朝礼後に全員で唱和し共有を図っている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を全職員でつくり、事業所内に掲示している。毎日朝礼時に唱和し、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行の祭りや文化祭などに参加したり地域との交流を行っている。また、中学生の職場体験や地域ボランティアの受け入れなど積極的にこなっている。買物も毎日出かけ地域の方との顔なじみも増え声をかけられるようになった	自治会に加入し、地域の清掃活動に利用者と職員が一緒に参加している。地域行事の夏祭り、公民館のサークル活動の発表会、文化祭にちぎり絵や習字を出展して参加するなど、地域の人と交流している。ボランティア(生花、マンドリン、コーラス、紙芝居、小月平家太鼓、大正琴、傾聴など)の来訪がある他、ボランティア来訪時に事業所の呼びかけに応じて来所した地域の高齢者、職場体験の中学生と交流している。散歩時や買い物時にあいさつを交わしたり、近隣の人から魚や旬の野菜、生花、果物の差し入れがあるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症への理解を深めて頂けるよう勉強会・情報の提示をしている。また、地域の方々を対象に認知症サポーター養成講座を行っている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果を確認し実際に実施出来ない所を目標に近づけるように取り組むため職員全員それぞれに自己評価しミーティングにおいて発表し改善に取り組むようにする	職員は評価の意義を理解している。自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、ミーティングで話し合った後に所長と管理者でまとめている。理念について話し合い、ケアの振り返りを行っている他、前回の評価結果を受けて、目標達成計画をたて、自己評価に全職員で取り組み、全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の計画など、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事の報告だけでなく、問題点やより地域に交流していける為の話し合いや意見を頂きサービス向上にめている	新たに消防分団長をメンバーに加えて年6回、定期的に開催している。事業所の状況や行事報告、事故報告、外部評価等について報告して、意見交換をしている。消防分団長の提案から避難訓練に運営推進会議のメンバーや消防婦人部から10名の参加があるなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状態や状況、事故報告などを行い、市へ連絡相談を行っている。運営推進会議には地域包括支援センターの方もしくは市の介護保険課からの参加をいただき協力関係を築いている	市担当課とは、運営推進会議の他、電話やFAX、直接出向くなどして、情報交換や申請内容、運営の相談、市のサービス内容等の相談をし、助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、グループホームブロック研修会で、困難事例の相談や情報交換を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については毎月ミーティングで研修を取り入れ職員一同理解をしている。玄関の施錠はしておらず、入居者の方が選択物入れ、花の水やりなど事由に出入りできる環境にしている	身体拘束防止に関する指針をもとに内部研修を行い、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。日中は玄関に施錠をしないで外出を察知した場合は一緒に出かけるなど行動を共にして全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては所長や管理者が指導をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	椅子からの立ち上がり、知らず知らず言葉による虐待などにも目を向け研修や日頃から正しい知識を身につけ早期発見に努める		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設当社より対象者はいないが研修には取り入れ学んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧にゆっくり説明しわからない箇所などはその都度説明し理解・納得して頂いている。入居後もご家族との連携をとり不安や疑問点などその都度聞きやすい環境であるように努めている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの相談・苦情の受付は随時行っている。2ヵ月に1度の家族会の時だけでなく家族の方々の訪問時はできるだけ個別に管理者・計画作成担当者が要望など聞くよう心がけている	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。2ヶ月に1回ある家族会時や面会時、訪問時、介護計画見直し時等で直接聞く他、連絡帳や電話などで意見や要望を聞く機会を設けている。家族会行事の継続や介護コストなどについて要望があり運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングには、ほぼ全員が参加し、それぞれの意見を発表する機会を設けている。提案なども積極的に反映させ実行してみて意見交換を行っている	月1回のミーティングで聞いている他、日常の業務の中で意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。トイレの手すりの設置やドアの取手の整備など、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、働きがいのある職場づくりに努めている。また、改善すべき点があった場合は素早く改善しよりよい環境整備に努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し研修を実施している。また、外部研修等へ参加した場合はミーティング等で発表を行い共有を図っている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。法人からの命令の研修の場合は勤務の一環として参加し、復命書を提出した後に内部研修で復命報告を行い、職員間で共有している。本人の希望による場合は自己研修として参加している。法人では法人施設間で職員の体験交流研修を実施し、3ヶ月に1度の管理者、リーダー会議において課題について話し合い、質の向上を目指している。内部研修は月に1回、管理者や所長を講師として感染予防や認知症の理解、傾聴、スピーチロック等を実施している。新人職員は、先輩職員が指導者になって日常の業務の中で働きながら介護の知識や技術を習得できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老・グループホーム協議会に入会し積極的に参加交流を継続しております。今後も交流を通じて良い点等を参考にして改善していきたいです		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族にセンター方式の記入をお願いし事前にできるだけご本人の情報を集め、スタッフ一同で共有する。入居の際は施設で安全・安心に過ごせるようにご本人の思いを傾聴し不安を和らげるように寄り添いを心がける		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入所までの思いをしっかり聴き、ご本人だけでなくご家族の心のケアも行っていくように努める		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際は、ご家族・ご本人の意見を尊重しながらいろいろな提案をさせていただき、幅広く選択していただけるような対応に努める		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは良きパートナーであり良き家族として家庭的な環境を作り、1日の流れの中で出来る事はできるだけ参加して頂き生活を行っている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会では一緒に楽しめる行事を心がけほぼ全員参加をしていただけている誕生会や音楽会などご家族にも参加して頂けるよう心がけを行っている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人・知人の方などに気軽に来ただけ居心地のよい空間作り、来訪しやすい雰囲気の環境作りに努め、来訪者の方々には再度訪問もお願いし縁が途切れないように配慮している	家族や親戚の人、友人、知人の来訪、家族の宿泊、馴染みの美容院の利用、馴染みの商店での買い物、神社、美術館、手紙や電話の支援の他、家族の協力を得て外泊、墓参り、寺参り、法事や葬儀へ出席、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でレクリエーション・行事や日々の関わりの中で良き交流が図れるよう職員が気配りを行う。席順等もそれぞれが楽しめるように職員で話し合っている。また、日々の体調・感情等にも配慮しサポートし安心して生活できるようにしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も家族との関わりをもち相談に努めている。ご本とも会いに行ける環境の限りは交流を行い最後まで見守っていけるように心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを常に聞きながら思いを尊重した生活ができるよう努めている。言葉に出来ない方に対しても何を求めているのか希望しているのか日々の生活の中で把握できるように心がけている	入居時に、センター方式のシートを活用して、利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。日常の関わりの中での生活の様子や身体状況、本人の気持ちを、事業所独自の改良版「24時間生活変化シート」を活用して記録し、その人らしい暮らし方の支援に努めている。把握が困難な場合は、家族や職員で話し合い、本人本意に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時などにこれまでの生活歴やなじみの暮らし方や趣味・嗜好など、ご家族に記入をお願いして情報を得るようにしています。また、ご家族の来所時などの際昔の様子など聞いたりしている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックだけでなく日々の生活の中で細かい変化にも目を配りひとりひとりの把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年の1度の家族へのモニタリングだけでなく、生活の中で変化があればご家族の要望をその都度聞き本人の思いも合わせ計画に取り入れるようにしている	利用者を担当する職員と計画作成担当者を中心に月1回、ケアカンファレンスを開催し、本人や家族、主治医、看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している他、状況や要望に変化があればその都度見直し、現状に合った介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人の日々の様子を「からだの様子」「こころの様子」に分け24時間シートに記入し職員で共有している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の食材の買物や毎月の外出外食等積極的に施設の中だけでなく楽しい時間を過ごせるようそれぞれのニーズにもこたえながら取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オープンから4年間、毎月欠かさず地域の方のボランティアに来ていただきなじみの関係を築いているため祭りや文化祭などの地域の行事ではたくさんの方に声をかけて頂き良い関係が築けている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご本人、ご家族に希望を優先している。また、往診も2週間に1度あるが他のかかりつけ医がある場合はそちらに受診支援を行っている	本人、家族の希望するかかりつけ医とし、家族の協力を得て、他科受診も含めて支援をしている。協力医療機関からは2週間に1回の往診と検査、感染症の予防接種、緊急時の対応の協力を得ている。かかりつけ医の受診時には、必要があれば事業所独自の改良版24時間シートを持参して情報提供を行い、受診結果は家族と共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の身体的、心理的な様子を日々観察し変化があれば看護師に迅速に報告し助言を頂き早期受診につなげられるようにしている。また、気になることなど相談しやすい連携を築いている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃より協力病院やかかりつけ医と密な関係作りをおこなっている。また、入院中の状況なども報告し退院に向けた体制ができるように連携関係をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在まで対象者はいませんが、昨年に終末期にいたらなかったが、家族・スタッフ・かかりつけ医との共有・協力関係作りなどを行い終末期に向けた話合などの対応に努めた、今後はその経験を活かして対応していく	「重度化した場合における指針」に基づいて契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は家族、協力医療機関や主治医、看護師等と話し合い、方針を共有しチームで支援に取り組む方針である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒や誤薬などを予防するためにひやりハット等の統計をとり、起きやすい時間帯・起きやすい状況などを理解しふまえた上での研修や応急講習を実施	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、原因や改善策をミーティングで話し合い一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。報告書の内容をグラフ化して職員の意識を高め、内部研修で応急手当や初期対応の訓練に取り組んでいる。消防署の協力を得て救急救命法の講習会の実施を計画している。	・全職員対象の応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練において職員一人ひとりが災害時に適切な避難誘導ができるように訓練を実施し地域の消防団とも連携を図り今後も避難訓練の出席をお願いする	消防署の協力を得て、夜間の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火訓練を年1回実施している他、利用者や運営推進会議のメンバー、地域の人と一緒に、総合防災の協力を得て年1回、避難訓練や通報訓練、防災機器の取り扱いなどについて実施している。地域の人には避難経路の確認や避難誘導、見守りなどの役割を担ってもらっている。運営推進会議に消防分団長が加わったことで、実際の訓練に地域からの参加者があるなど地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で慣れ合いになりすぎないよう言葉づかいには気を付けている。ひとりひとりの意思を尊重した寄り添いを行っている	内部研修（認知症について、傾聴等）やミーティング、日々のケアの中で学び、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心がけている。利用者の個人情報については責任ある取り扱いをし、守秘義務は徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に確認しながら希望聞いているが、意志疎通の難しい方には過去の傾向から詮索し選択肢を提案したりしわかりやすい言葉がけで自己決定しやすいように努める		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	開設から4年経ち入居者の身体状況などの経過により外出などの支援が難しくなってきたりしている方もいるがその日その日の過ごし方は入居者の希望通りに自由に出来ている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好むおしゃれ、好きな服装などわかる方には選んでもいただき難しい方には選択肢から選んでもいただくようにしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物際に材料を選んで頂いたり、一緒に献立を決めたり食事を楽しめるように心がけている。また、見た目の色合いなどにも配慮している	利用者の好みを聞いて献立を立て、差し入れの魚や旬の野菜などの食材を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、食材の買い物から準備、調理、盛り付け、配膳、お茶汲み、テーブル拭き、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じ物を食べ、会話を弾ませながら食事を楽しんでいる。食後は一人ひとりの嗜好品(コーヒー、紅茶など)を聞いて、職員も一緒にお茶を飲みながらゆったりと過ごしている。季節の行事食やおやつづくり(ホットケーキ、寒天、ぜんざい、プリンなど)、誕生日のケーキづくり、戸外での弁当での食事、外食等、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から気をつけて水分量や食事量などに気を付け支援している。水分摂取が少ない方は極力分けて水分補給を行い1日の水分補給量の確保に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔洗浄の声かけをおこない実施している。義歯もはずして洗浄を行い清潔を保つようにしている。また、歯科との連携を図り指導や助言をいただいている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間は紙おむつや紙パンツを使用している方も日中はトイレにて排泄を行っている。また、排泄事態理解が困難な方はトイレ誘導し排泄を行っていただけるように心がけている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期の確認を行い出来るだけ薬に頼らず食事や体操などに気をつけている。毎日自家製ヨーグルトの摂食に努め食物繊維も多くと入れるようにしている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関してはとても喜ばれる。入浴の日については一応固定の順番があるものの本人のタイミングと日々のに状態に合わせて対応している。希望があればいつでも入浴は出来るようにしている	入浴は13時から16時までの間で一日おきの入浴としているが、希望すれば毎日でも入浴できる。利用者の希望とペースに合わせてくつろいだ入浴となるように支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や清拭、足浴等の対応をしている。季節に合わせた柚子風呂や足浴時に好みの入浴剤を入れるなど、入浴が楽しみなものになるように工夫している。入浴したくない人には、職員の交代や時間の変更、言葉かけの工夫をして、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調、生活習慣に合わせて休んでいただきたいが日の休息などは、他の入居者の行動が気にかかり休めないこともあるが夜間は、声かけし安眠できている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局を一本化し薬剤師との連携が保てており気軽に相談できる環境作りが出来ている。また、わからない事なども直接医師に聞ける環境のある		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるだけ各自やりたいことなど1日の内に取り入れるように心がけ1日1回は笑顔で楽しいと思えるようにしている	新聞を読む、日記をつける、テレビ視聴、習字、ぬり絵、折り紙、切り絵、カルタ、トランプ、歌を歌う、ラジオ体操、嚙下体操、脳トレ(計算ドリル、漢字、書写、連想ゲーム)、花の水やり、ゴミ捨て、モップで掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、買い物、食事の準備、調理、食器洗い、テーブル拭き、コーヒーや紅茶を楽しむ、外出、ボランティアの来訪など、楽しみ事や活躍できる場面を多くつくり、日々の暮らしが張り合いや喜びのあるものになるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買物への外出や近隣の散策、家族による外出支援など行い、祭事や季節の行事などへの外出などは欠かさず行っている	近隣の散歩やスーパーへの買い物、地域行事への参加、季節の花見(桜、菖蒲、バラ、紫陽花、藤棚、コスモス、紅葉など)、梨狩り、イチゴ狩り、ドライブ(道の駅、竜王山、リフレッシュパークなど)、月1度は全員(車椅子利用者も)で外出できるようにしている他、家族の協力を得て外出や買い物など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近はお金を所持していないと不安になる方はいないが、買物時の支払い等可能な限り行っていたくように支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に一言手紙か書いたり、遠方の家族には特に連絡を定期的におこなっている。また、耳のいい方には電話でお話しをして頂いている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	第一に清潔であり、落ち着けるような空間作りをしている。季節に応じては花などを置き帰結感を味わえるようにしている。また、室温・明るさなども気をつけて配慮している	共用のリビングには季節の花を飾り、洗濯物をたためる広い畳の間があり、利用者が思い思いの場所でくつろげるようにテレビの前や横にたくさんのソファを配置している。アイランドキッチンの周りでは利用者と職員と一緒に食事の準備ができるように工夫している。壁面には利用者や職員の季節の手づくり作品を掲示し、温度や湿度、換気に留意し、誰もが居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの入居者の方がリビングにて気の合う入居者同士とお話をされたり、新聞を読んだり、居眠りしたりと安らげる環境作りはできている。また、自由に自室で1人でゆっくりできるようにもしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や食器など使い慣れたものを使用したり、家族で撮られた写真などを飾ったりと居心地良い空間作りに配慮している	使い慣れたベッド、テレビ、机、椅子、時計、衣装ケース、衣装箱、時計、鏡、小物の飾り物、絵画、花の写真、鉢植え、造花、生花、花瓶、日記帳など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のその人らしくできること、わかることを把握して引き出せるように工夫し声をかけでなるべく自分でしていただくように配慮している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム小月

作成日： 平成 26年 8月 9日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	現在も応急手当や初期対応の定期的訓練に努めているが今後も継続して訓練を実施する必要がある。	全員に再度普通応急講習を受講と初期対応などについての研修を実施する	消防署に普通応急講習会の開催を依頼して受講を行う。また、毎月のミーティングにおいても研修を取り入れる	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。